

# 令和3年度 沖縄県振興審議会第5回文化観光スポーツ部会 議事要旨

日時: 令和3年 11 月 16 日(火)14:00~16:32

場所: 沖縄県市町村自治会館中会議室及びオンライン

## 1 新たな振興計画(中間とりまとめ)について

### 【東委員】

- デジタルトランスフォーメーションによる沖縄観光の変革とあるが、それを可能にするためには既存の国内法の規制の撤廃とか緩和がないと、いくらシステムだけよくなったとしても変革ができないということがある。
- eスポーツを活用した新たな展開のところで、興行ビザの発行など新たな制度創設に向けた取組を記載していただきたい。
- 離島観光のところで「光害」と記載されているが、光を害とまで言っているのか。

### 【原田委員】

- 観光二次交通のところでカーボンフリーの記述があるが、もう少し分かりやすく、「脱炭素」の文言を併記したほうがよい。
- 将来の国際観光をにらんだ場合、脱炭素に非常に積極的に取り組んでいるというのは沖縄のブランド力の向上に絶対プラスになるので、気候変動への対応という文言もぜひ入れていただきたい。また、レンタカー事業がこれからさらに活性化することを考えると、二千何十年には全部電気自動車に代えるとか、そこまで踏み込んだ対応が必要かなと感じた。
- スポーツ施設、特にアリーナとかスタジアムもそうだが、二酸化炭素の排出量をどれぐらい下げられるかというのが世界基準になっている。LEED(Leadership in Energy and Environmental Design)という施設の認証制度があって、そのゴールドを取るとアリーナの価値がぐんと上がるという取組もアメリカでは行っているのだから、このような取組も世界に先駆けてやるとよいのではないかと。
- スポーツコンベンションについて、MICEではC(コンベンション)とE(エキシビション/イベント)が別だが、本文を読んでいるとコンベンションの中にイベントが入っている。一般の人がコンベンションというと会議になるので、あえて沖縄では一緒にするのであればスポーツコンベンションの定義を記載したほうがよい。

### 【與座嘉博委員】

- 行政等では障害の字は「害」は平仮名を使っているのではないのかなと思うので、文字の訂正をご検討いただきたい。

#### 【富田委員】

- 文化を生かした観光振興を強調するため、「文化観光」の文言を記載していただきたい。文化と観光が手を結んだ文化観光という視座での取組はまだまだ弱いように感じる。
- 沖縄の観光資源の中でも文化というのは非常に重要であり、沖縄の文化を継承、発展させていくというためにも、観光で得られる収益などを今後の文化活動に生かしていくことも循環型という意味でもとても大切である。

#### 【平田副部長】

- 文化観光スポーツ部が生まれた背景には、文化とスポーツのソフトパワーを活用した観光の新しいスタイルをつくっていくという意味合いがあったが、市町村はそこまで文化と観光とスポーツがリンクしていないため、文化観光という言葉は市町村の中では落とし込みが難しいのではないかと感じる。市町村に至っても文化と観光とスポーツを結びつけられるような、緩やかでいいので機構改革がされるべきではないか。

#### 【倉科委員】

- 3-(2)アのリード文の文章の流れが非常に分かりにくい。
- 多文化共生社会のところで、「イチャイバチョーデーの心」とあるが、ゆいまーる精神というのも、多文化共生社会構築に影響のあるものなので、文言を追加してはどうか。

#### 【與座博好委員】

- 多文化共生社会のところで、施策展開リード文の記載が「～に向け」「～に向け、」「～に向けた」とあるが、統一した方が読みやすい。
- 国際交流や文化交流に関しては、教育現場において、相手国の言語を学び理解することも大事だが、自国の日本あるいは沖縄、住んでいる地域の歴史や文化を外国の方に正しく伝えるための知識を持つこと、勉強していくことが同じくらい大事であるという教育に取り組んでいることから、「外国語教育の充実」ではなく「国際理解教育の充実」とした方が、交流の架け橋となる人づくりにつながっていくのではないかと感じた。

#### 【渡嘉敷委員】

- スポーツ資源を活用したまちづくりにおいて、「スポーツ関連団体やアスリート等の参画による多様な社会課題の解決」とあるが、社会課題解決の事例を記載した方が分かりやすいのではないか。
- 県民の競技力向上・スポーツ活動の推進の記載が「高いコーチング能力に加えコミュニケーションスキルを身に付けるなど、多様なニーズに的確に対応できる」とあり、さらに「指導力を身に付けた指導者の養成」と重複感があるので整理していただきたい。

## 2 目標値について

### 【東委員】

○海路クルーズ船の将来予測という部分で R13 年度の基本値がおよそ2倍になっているが、ハードインフラをどうするのかという計画が並行して行われていなければ計画としては片手落ちではないかと思う。

### 【原田委員】

○クルーズに関しては、順調に伸びると予測していたハワイでさえもクルーズビジネスがほぼ消滅したというのを聞いているので、慎重に数字を積み重ねたほうがよい。

### 【下地部会長】

○クルーズの数値は港湾サイドとしての考えかもしれないが、観光としての考え方は別にあってしかるべきであり、議論が必要である。

### 【前田委員】

○空の入域客数について、空の玄関が北部にもあれば、分散化により環境の負荷軽減になると思うし、移動距離の短さの分だけ沖縄での滞在が長くなるというところでは、お客様の過ごし方、パッケージの満足度とも関係してくると思うので、もう少し広い目で沖縄本島内全体の入り口を考えてもよいのではないか。

## 3 その他

### 【東委員】

○沖縄観光の変革について記載があったが、今まさに求められている変革というのは、コロナ禍で傷ついた2年間で1兆円を失った観光産業、その中で観光事業者をどうサポートしていくかということであり、これからどのように取り組んでいくのかを、県の中で総合的、横断的に伝えていただきたい。

### 【下地部会長】

○観光産業、文化も含めて産業を支える経営基盤というのが企業、団体、非常に弱くなっているというのを実感している。当分の間は産業、人材を支える政策というものがものすごく問われると思うので、担い手となる個人、企業を支えるための制度や財源の確保、経営支援策を盛り込んだ形での事業立てを検討していただきたい。

### 【與座嘉博委員】

○彩発見事業について、情報が統一化されていないので、旅行各社に対しての再度の説明会や情報共有の場をぜひ提供していただきたい。

以上